

Topic 1

◇今春入試合格体験記 合格者喜びの声

小島 汐里 さん

■合格大学：国立 埼玉大学 経済学部 / 法政大学 キャリアデザイン学部
■学校名：県立 熊谷女子高校 ■校舎名：熊谷中央校



● 合格を手にしたの感想

ずっと考えていた第一志望校だったので、合格を知った時はとても嬉しかったです。塾で受験する大学の赤本をたくさん使わせていただいたおかげで、入試本番ではほとんどの問題を解くことができました。また、先生方に質問したり、添削していただいたおかげで、より理解を深めることができ本当に良かったです。

● 俊英館に通塾して良かったところは？

まず、先生たちがフレンドリーに接してくれるところが良かったです。そのため質問もし易かったし、進路のこともたくさん相談することができました。また、自習したり WEB 授業を受けたりと、自分のペースで勉強できたので、学校の成績や模試の結果も1年生のころと比べてどんどん良くなりました。

● 後輩へのアドバイス

私は3年生になる直前に受験単語集に取り組み始め、遅れたため、最初のうちは長文も不得意でした。しかし、単語がある程度覚えられると、長文もスラスラ読めるようになったので、単語を始めるのは早ければ早いほど良いと思います。また、英語の読解の WEB 授業（石橋先生）がとても解り易かったです。日本史や政経などの暗記教科は、定期テスト前だけでなくその後も継続してやっておかないと入試までにレベルを上げるのが間に合わなくなってしまうので、一問一答やワークを繰り返しやっておくことをお勧めします。現代文の WEB 授業（児玉先生）も、国立の二次の勉強まで役立ちました。

岡田 のどか さん

■合格大学：大東文化大学 文学部 教育学科 / 帝京大学 教育学部 児童教育学科
■学校名：県立 熊谷女子高校 ■校舎名：熊谷中央校



● 合格を手にしたの感想

受かったときは本当に安心しました。嫌いな教科は後回しにして無計画に勉強してきたので、1・2年のころは学力が向上しませんでした。受験の1年前から始めてようやく間に合った感じです。夏休み前からは絶対に遅いと思いました。後輩の皆さんも、今からなら、あせらずきちんとやればきっと受かると思います。

● 将来の夢や目標は？

小学校の頃から宿題をさぼって提出物もださなかったのですが、その癖が今でも抜けなくて、本当に後悔しました。これからどんどん成長していく子には、私のようにはなってほしくないのだから、きちんと決まりごとを守るといふ常識の大切さを伝えたくて、小学校の先生を目指そうと思いました。

● 後輩へのアドバイス

わからない事は必ず聞いて、後回しにするのだけはやってはダメです。1つほころびができるだけで、後々本当に苦しくなります。1・2年生のうちに、しっかり授業を聞いて理解すれば、明確な志望校が決まっても選択肢は広がります。つまらないと思う授業でも、しっかり聞いてください。そうすれば自分の弱点がはっきりとわかると思います。それと、ON と OFF の切り替えをしっかりできるようにするといいです。

1 大多数の保護者 教育資金に不安！

学校以外の塾や習い事などの教育費は1か月あたり平均1万2,560円で、前年より2,320円増加したことがソニー生命の「子どもの教育資金に関する調査2017」により明らかになった。また、教育資金に不安を感じている人は75%で、「どのくらい必要かわからない」という理由がもっとも多かった。

大学生以下の子ども(複数いる場合は長子)がいる30~59歳の男女を対象とし、1,000名の有効サンプルの集計結果をまとめたもの。調査期間は2月9日~2月13日。

子どもの将来について「受験・進学」は71.2%、「教育資金」は75%が不安を感じていた。このほか、「就職活動」に64.9%、「インターネットやSNSの利用」に63.6%、「学校生活」に48.2%が不安を感じると回答した。

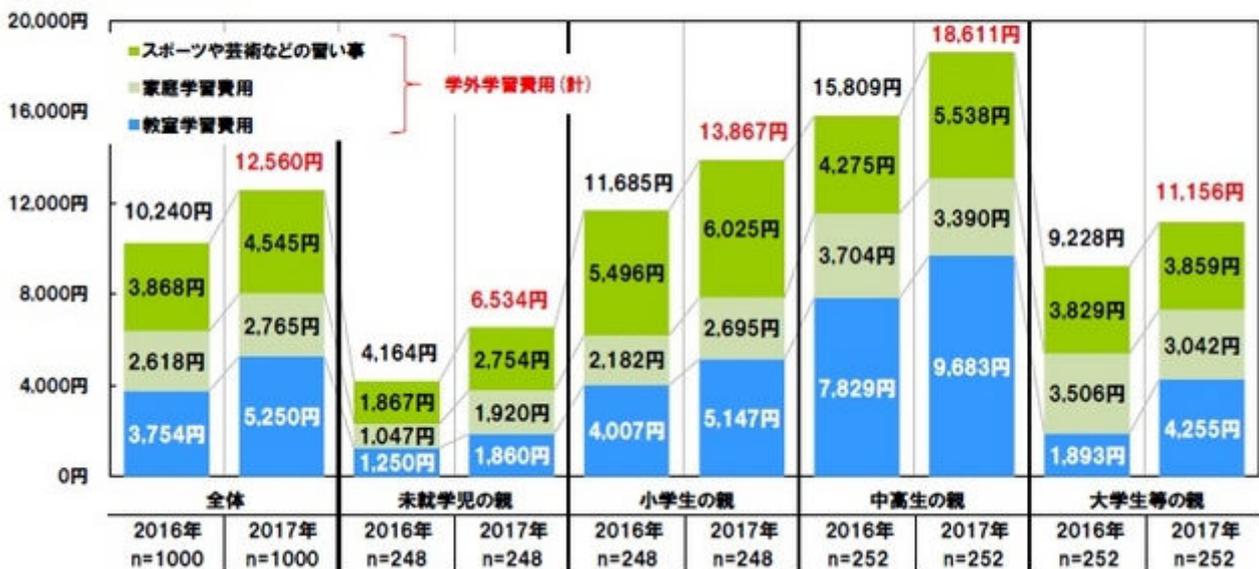
教育資金に不安を感じる理由は、「どのくらい必要かわからない」が57.2%ともっとも多く、未就学児の親では70.5%が不安を感じていた。他には、税制や社会保障制度がどのように変わるかということも教育資金への不安要因の1つになっている。

子どもが社会人になるまでの教育資金予想額は、平均1,194万円。過去の調査と比較すると、2014年1,229万円、2015年1,156万円、2016年1,136万円と、前回調査までは減少傾向が続いていたが、今回調査では一転して上昇した。

進学費用のための備えとして、高校生以下の子どもを持つ親の平均支出額は前回調査よりも346円増え、1万2,513円/月。「学資保険」や「銀行預金」で準備している人が多い。また、教育資金のために節約している支出は、「外食費」が42.3%ともっとも多く、「衣類・ファッション費」38.0%、「レジャー・娯楽費」36.5%、「自分の小遣い」34.6%と続いた。

◆学校以外での教育費の平均支出金額(子ども一人あたり・月額)
[自由回答結果より算出]

ReseMom



2 東大合格者ランキングに異変！

今年の東大合格者出身高校別ランキングは、昨年比10人減とはいえ、開成が160人で36年連続トップとなった。2位は筑波大付駒場の102人、3位は灘の94人で、両校とも昨年と同数であった。4位は過去最高となった渋谷教育学園幕張と16人減の麻布。

今年のランキングでは異変が起きた。一つは、1971年から半世紀近い46年間にわたりベスト10入りしていた国立の東京学芸大付が11位になったことである。89年、95年、97年、04年は開成に次ぐ2位を記録し、1988年には115人の合格者を出すなど、長年、共学校トップの合格者数を誇ったが、昨年、一昨年と渋谷教育学園幕張にその座を奪われていた。

もう一つは公立校からの合格者が増えている一方、私立の中高一貫校が減らしていることだ。だが、公立でも都立高の合格者総数は減っていて、中でも都立中高一貫校は10人減となった。増えているのは愛知の旭丘(14人増の37人)、神奈川の横浜翠嵐(14人増の34人)、埼玉の浦和(10人増の32人)などで、東京以外で大きく伸びている公立校が目立つ。トップ10は中高一貫校ばかりだが、確実に公立伝統高の復活も進んでいるといえる。

■ 受験チャンスは2回。第1志望は前期が鉄則！

国公立大の一般試験では多くの場合、「センター試験の得点」+「個別(2次)試験の得点」の総合点で合否が決まる。個別試験は各大学が独自に行う試験のことで「前期日程」と「後期日程」の2つの日程で行われる。出願できるのは各日程1大学のみである。つまり、国公立大の受験チャンスは2回が基本である。公立大は「中期日程」で入試を行っているところもあるため、これを入れると受験チャンスは3回となる。試験のイメージは「センター試験=幅広い基礎学力」+「個別試験=志望学科への適性や学力を深く問う」という2段階で捉えるとわかりやすい。

* [前期日程] & [公立大中期日程] 基本的には学科試験(筆記)。文系は「国語, 数学, 英語」, 理系は「数学, 理科, 英語」から1~3教科を課す。医療系では面接や小論文, 教員養成系では加えて実技が課される場合が少なくない。

* [後期日程] 面接や小論文, 総合問題, 実技を課す大学が多い。学科試験だけでは計れない力を見る。

■ 特徴的な制度

[2段階選抜] センター試験の成績だけで選抜される制度(第1段階選抜)。ここでの不合格は“門前払い”を意味し、個別試験を受験することができない。難関大や医学部を中心に、各大学があらかじめ発表した倍率(志願者数÷募集人員)を超えた場合に行われる。

[前期のみの大学] 難関大や医学部を中心に、募集が「前期のみ」のところも多い。その大学・学部が第1志望の場合、受験チャンスは1回だけとなる。

[第2志望登録] 各日程で出願できるのは1大学だけだが、同じ学部内の他の学科を第2志望として登録できる大学も多い。第1志望学科で不合格でも、第2志望で合格する可能性がある。

■ 2018年度 国公立大入試のおもなスケジュール

